

DanRyu VOL.3

2022

2022年度テーマ

CHALLENGE!!

OKAYAMA

本音で話し合うことで生まれる絆を
次世代にもつないでほしい

第27回うらじゃ2022～創～

岡山の空を照らす大花火連携プロジェクト

DX事例紹介

2022年度 活動報告



Special Talk

本音で話し合うことで
生まれる絆を次世代にも
つないでほしい

木村正明

株式会社ファジアーノ岡山スポーツクラブオーナー兼



子どもたちに
夢を!

石井聖至

公益社団法人 岡山青年会議所 第72代理事長

暖流

CONTENTS

Special Talk

本音で話し合うことで生まれる絆を
次世代にもつないでほしい

木村正明さんと石井聖至理事長の意見交換

第27回うらじゃ2022～創～

岡山の空を照らす大花火連携プロジェクト

DX事例紹介

- 1.「工程管理システム導入」
岡山トヨタ車体株式会社
- 2.「工事の品質向上のために」
株式会社裕翔

01

2022年度 活動報告

1. わくわくファーム2022
2. 未来へと繋がるこども塾
3. シゴトカレッジ2022
4. 観光地クリーン運動
5. サンタロウタクシー誕生

08

04

06

07



Special Talk

本音で話し合うことで生まれる絆を次世代にもつないでほしい

木村正明 × 石井聖至

株式会社ファジアーノ岡山スポーツクラブオーナー

公益社団法人 岡山青年会議所 第72代理事長

暖流

公益社団法人岡山青年会議所

Since 1951

2022年【暖流】発行にあたって

公益社団法人岡山青年会議所の広報誌「暖流」をご覧いただきありがとうございます。

青年会議所「JC」は20歳から40歳までの青年経済人たちが、地域経済の活性化や地域の課題解決に取り組み「ひとつづくり」や「まちづくり」を行っている団体です。

JCは全国でおよそ690あります。その中でも、岡山青年会議所は全国でも9番目に早い1951年に設立され、今年で72年目を迎えます。

2022年も10月を迎え、依然として新型コロナウイルスの蔓延している状況の中ではありますが、岡山青年会議所だからこそできる地域への貢献を日々模索しております。

2022年8月には「第27回うらじゃ」そして「岡山の空を照らす大花火連携プロジェクト」でサプライズ花火を実施して、コロナ禍で疲弊した岡山のまちの活性化を図りました。

いずれも岡山青年会議所単体では成し得ない事業でしたが、行政や様々な地元団体、県内外企業と連携することで協力し合った結果、いずれも大盛況となりました。どんな難事であろうと、多くの人や組織が一つの目的に対して一致団結することで、何事も成し得る巨大な原動力となるのです。

コロナ禍に喘ぐ今だからこそ、岡山のまちを愛する一人ひとりが立ち上がりましょう。それがやがては変革をもたらす大きなうねりとなります。

青年である我々は地域の発展のために邁進し、行動を続ける責務があります。率先して地域社会を牽引し、多くの人や団体を巻き込みながら、岡山のまちの活性化と発展のために行動し、挑戦していきます。今後とも2022年度の岡山青年会議所、そして我々の活動に一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

公益社団法人岡山青年会議所 2022年度 第72代理事長

石井聖至

CHALLENGE!!
OKAYAMA



特別 対談

日本プロサッカーリーグ専務理事を務め、
2022年から再び岡山に戻ってきた木村正明氏と、
ファジアーノ岡山や岡山のまち、青年会議所の活動など、
さまざまな意見を交わしました。

石井聖至(以下、石井) 本日はよろしくお願ひします。
まずは、これまでのファジアーノ岡山の活動を振り返っていただければと思います。
ホームページに出された木村オーナーのコメントでも「社員は2名、選手報酬0円からの船出でした」とありますが、改めて思い返していかがでしょうか。

木村正明(以下、木村) 当時チームに関わっていた同級生からの「岡山に帰ってきてファジアーノ岡山を立て直してくれないか」という依頼が最初でした。確かに社員2名から始めましたが、先輩である岡山青年会議所の皆さんが地域のために活動されている姿には学ばせていただきましたね。とにかく人に会わないと始まらないので、多くの方にお会いさせていた日々でした。

また生まれ育った岡山を離れて、「どこ出身ですか?」という話題になった時に、岡山の印象が弱くて……。自分のチームがない悲哀を強く感じていたんですね。そこで生憎気かもしれませんが「岡山にプロチームがなくていいのですか?」と県民に問いかけたかったです。

一方で僕たちの独りよがりでは誰も賛同してくれないので「どうすればいいですか」と聞いて、言われたことを実践することが中心だったように思います。

石井 やはりゼロから作り上げるときが一番大変ですよね。その時に「尽力されておられた木村オーナーのご苦労というのは、想像し難いものがあります。」

また今期、ファジアーノ岡山はJ1昇格をかけての試合となるほど実力が上がっているように感じて、わくわくしています。サッカーが強くなる、そのような環境が整っているのでしょうか。また、まちの人たちの応援の感触は変化がありますか?

木村 公民館などで卓話や講演をさせてもらったのですが、そこで「ファジアーノ岡山

分の好きなスポーツができる環境が整っていることを感じます。

また様々な連合町内会にも行かせていただいたのですが、岡山のまともには全国屈指ですし、岡山青年会議所さんの活動も盛んで、地域団体の結束の強さは相当だと思えますね。

石井 ありがとうございます。また岡山青年会議所は青年経済人の団体ですが、我々青年経済人へ期待することなどがありますか。

木村 岡山青年会議所が「一番すごいのは結束だと思っています。今の時代では無くなりそうな、絆やつながりの深さを組織で学べるのが大きいと思っています。」
いまは会社で昔のような指導をするようなラズメントと言われたり、指導教育が難しくなったりしていますよ。

しかし組織には人間関係も大切だし、そうした組織のソフトもハードも合わせて学べるのが岡山青年会議所という場所だと思っていますので、そうした学びの場を大切にしていきたいですね。

石井 僕はよく「オールJD」と言われるんです。古しきたりを続けていて、はたから見ると何故と思われるかもしれませんが、そこに意味があるんだと思って愚直にやりたいと思っています。

理事長としてお給料をもらっているわけではなく、メンバリーに給料を渡しているわけではないので、人を動かしたりマネジメントしていくことは難しいですね。ですが夜な夜な集まって、意見を戦わせることは勉強になりますし、どうすればチームに貢献できるだろうか考えた経験は、今の自分をつくりあげてくれていると思っています。

今年の8月に岡山市内10か所で花火を上げたのですが、たった15分間のために、メンバーが一年間かけて準備してきたんですよ。約1

感じています。

石井 また木村オーナーは公益社団法人日本プロサッカーリーグで専務理事としてお務めになれましたが、中央から見ると岡山という地域はどのように映っているのでしょうか。

木村 「岡山がどう見られているか」というのはよくお尋ねいただきます。自分自身、その人を通して見るのが地域の印象ではないでしょうか。

たとえばBの稲葉さんや、昨年よく名前を聞いた藤井風さんなど、人そのもののイメージも、まちを印象付けていると思います。「桃太郎」「きびだんご」といったマクロなイメージも大事なのですが、人というミクロな部分も大事なのだということを痛感しました。

石井 最近では岡山出身の有名人も増えてきていますね。お笑い芸人と言えば千鳥さんは、人気芸人として上り詰めているじゃないですか。そういう方が同じ方言でしゃべってくれると嬉しいですね。

また地域が抱える課題など、お気づきになられた点がありますか。

木村 岡山には「まともっていない良さ」と「まともっていない良さ」の両方があると思います。地域によっては盛んなスポーツが決まっていたりしますが、岡山はどのスポーツも盛ん。ひとつにまともっていないけれど、自



石井聖至
Kiyonari Ishii

昭和57年5月に、岡山市に生まれる。平成17年、大阪学院大学経済学部を卒業後、株式会社オカムラに入社。平成22年に株式会社石井事務機センター入社後、令和3年に専務取締役に就任後、現在に至る。公益社団法人岡山青年会議所には平成25年に入会し、令和元年に組織未来室常任理事、令和2年にまちづくり室副理事長、令和3年に未来創造室副理事長を歴任。



木村正明
Masaaki Kimura

1968年、岡山市生まれ。東京大学法学部卒業後、1993年にゴールドマン・サックス証券に入社、2006年に同社を退職して株式会社ファジアーノ岡山の代表取締役役に就任。クラブの規模を着実に拡大し、J1昇格を狙える位置にまでに成長させる。2018年から2022年まではJリーグ専務理事を務めた。現ファジアーノ岡山スポーツクラブオーナー。

のことを知っている人」「試合に行っただけの人が知っている人」「先週末の勝敗を知っている人」という風に質問をさせていたと思います。それが2018年頃になると試合に来るかどうかは別にして、ほとんどの人が試合結果を知りようになっていました。

これまで下のカテゴリから昇格を重ねて、中国リーグから日本フットボールリーグ、そしてJ2へと昇格するたび、大きなうねりが生まれているので、もしJ1に昇格するときには、どんなことになるのかはわからないかと

※この対談はマスク着用(写真撮影時以外)、手指消毒、検温チェック、ソーシャルディスタンスの確保等、安全面に最大限配慮したうえで行いました。

8月20日・21日に第27回うらじゃ 2022 ～創～ が開催されました。岡山の夏の風物詩となった岡山を代表するお祭りです。岡山青年会議所こそ、うらじゃの発起人。岡山青年会議所メンバーも一年かけて企画や準備を行いました。

また当日もボランティアスタッフとして活動いたしました。うらじゃはコロナ禍によって中断されており、今年ようやく3年ぶりの本祭が行われました。例年のようにたくさんの会場でというわけにはいきませんでした。演舞会場の数を減らし、パレードの本数を減らすなど未だコロナ禍中であることを自覚しつつ、その中でもできることを凝縮しての開催を目指しました。

「手を繋がない」「ディスタンスを守る」などのルールを設けた総おどりは、うらじゃ復活のフィナーレを飾るのにふさわしい盛り上がりでした。

これからも岡山の夏を盛り上げられるお祭りであり続けたい。うらじゃが岡山の宝であり続けるように活動して参ります。

また来年、第28回うらじゃでお会いできるのを楽しみにしております。



第27回 うらじゃ 2022 この晴れ晴れおかげさまで 創

2022年 8/20(土)21(日)

新型コロナウイルスの影響で3年ぶりの開催となった「うらじゃ」。

踊り手と観客の数を制限しながら
複数の演舞場での演舞や市役所筋パレードを開催。

フィナーレの総踊りには観客も加わって、
岡山の夏の風物詩となった祭典は、熱気に包まれて幕を下ろしました。

CASE STUDY

DX事例紹介



工程管理システム導入

自動車の板金修理では、大きく板金と塗装の工程がありますが、その中でも様々な工程に分かれています。修理車両が多いと、全体での作業時間短縮化は非常に複雑となります。

岡山トヨタ車体(株)では、独自の工程管理システムを導入し、修理車両の状況をリアルタイムで可視化。作業に無駄のないよう、どの車両をどの工程に進めればよいかという作業計画をシステム側で組立しています。作業者は作業場にある大型モニターに従い、効率的に作業を進めて行けるようになりました。

岡山トヨタ車体株式会社
岡山市北区野田四丁目15番61号



岡山トヨタ車体株式会社
津山営業所

工事の品質向上のために

岡山青年会議所メンバーの岸本啓吾さんが経営する土木工事会社です。

土木工事にどのようにDXが関わってくると疑問に思われるかもしれませんが、DX化を行うことにより効率が飛躍的に向上しました。

一例として、工事完了後にお客様へ工事写真を提出する工程があります。工事管理ソフトに設定されたカメラで撮影することで全従業員がクラウド上で内容を確認することができます。これにより例えば担当者が気付かないミスがあったとしても、リアルタイムで担当者へ是正を通告することが出来ることでトラブルを防ぐことができます。

そのほかにも工程管理、書類管理、安全管理などの情報共有をクラウドで行うことで、品質向上、人材育成にも役立っています。

株式会社裕翔
岡山市中区江並375-1



岡山の空を照らす

大花火
連携プロジェクト1万
1000
発

市内

10カ所

開催場所

吉備津(きびつ)/玉柏(たまがし)/加茂(かも)
吉宗(よしむね)/今保(いまぼう)
東平島(ひがしひらじま)/平井(ひらい)/植松(うえまつ)
光南台(こうなんだい)/花回廊(はなかいろう)

「岡山の空を照らす大花火連携プロジェクト」
市内10カ所同時サプライズ花火

8月20日(土)19時30分から、11000発の花火を岡山市内10カ所同時に打上げました。突然、大きな音と光に包まれ、何かと思われた方も多かったと思います。驚かせてしまい申し訳ありませんでした…。

コロナの影響で、地域のお祭りやイベントまた学校行事など中止や縮小が余儀なくされ、寂しい想いをされている方々に、少しでも夏を感じてもらいたい。そして新型コロナウイルスの終息と疫病退散の願いを込めて、一年間、岡山JCが準備をしてきました!

場所によっては、同時に4カ所、5ヶ所からあがる壮大な光景をご覧になっていただけたと思います。前例のない規模感のサプライズ花火を、大きなトラブルもなく全会場、無事に完了することができたのは、設営にご協力をいただいた岡山YEGの皆様、岡山県商工会青年部連合会の皆様、消防や警察など行政機関の皆様、各町内会の皆様。そして想いを託しご協賛いただいた、80社を超える地元企業の皆様。JCの挑戦を全力で応援していただいた山陽新聞社の皆様。SNSで喜びの声をあげてくれた市民の皆様。マスコミ各社様、関わっていただいた全ての方々のおかげに他なりません。心から感謝をお伝えさせていただきます。

2022 ACTIVITY REPORT

2022年度活動報告

ビジネス特別講義プレゼンテーション大会

シゴトカレッジ2022

03

7月23日、IPU・環太平洋大学にて「シゴトカレッジ2022」最終日のプレゼン大会を開催いたしました。

6月より全5日の日程で行われる本事業の集大成の日となりました。

IPU・環太平洋大学の橋本学長をはじめ教員の皆様、また課題提供企業の皆様にお集まりいただき、学生の皆さんが今までの4日間での学び、分析したことを踏まえ、今後企業が挑戦できる事業をプレゼン形式で提案・発表しました。

学生の皆さんは大勢の出席者の前で、堂々と発表し、また質疑応答に対してもしっかりと応答する姿に感動を覚えました。

5日間にわたる長期の事業でございましたが、課題を提供していただいた企業の皆様、参加をしていただきました皆様の多大なるご尽力及びご協力に改めて御礼申し上げます。

本事業を通して青少年の育成に関われたことを嬉しく思います！



観光シーズンに備えて清掃

観光地クリーン運動

04

8月27日午前8時より、岡山市の観光地である石山公園周辺のクリーン運動に参加いたしました。岡山城や後楽園のまわりをおよそ13の団体がゴミ拾いを行いました。

この活動によってきれいな観光地を色々なところにアピールできたら良いと思います！ご参加いただいた皆様大変お疲れ様でした！

黄色いタクシーに黄色いキリンをデザイン

サンタロウタクシー誕生

05

両備グループが推進する地域創生プロジェクト、「WONDERFUL SETOUCHI」企画から派生したイエロースペシャルティの第3弾として「サンタロウタクシー」が運行となり出発式を行いました！

岡山青年会議所が70周年記念事業として池田動物園に寄贈した岡山唯一のキリン「サンタロウ」がモチーフになっています！

出発式には岡山青年会議所の石井理事長も出席し、挨拶を述べさせていただきました。

「サンタロウ」とは、池田動物園に2021年3月に仲間入りした待望のキリン。キリン不在の動物園にキリンを贈ろうと岡山青年会議所が呼びかけたクラウドファンディングで仲間入りが実現したアミメキリンのオスです。車体全体にサンタロウのイラストをあしらったインパクトのある車両で岡山の街を走行し、地域で世代を超えて思い出を繋いでくれた池田動物園を応援するとともに、地域の魅力発信につなげてまいります！

是非皆さんもサンタロウタクシーにご乗車して岡山の街を楽しく移動してくださいね！



親子で体験して学ぶ

わくわくファーム2022

01

6月・7月の二回にわたって「わくわくファーム2022」を実施しました。1回目は瀬戸内市邑久町にある学園館農園にて、田植え・泥んこ遊び体験事業を開催。

2回目は岡山県瀬戸内市長船町いぶきファームにて、トマト、ピーマン、茄子、オクラなどの野菜収穫体験を開催しました。

近年情報化や都市化による地域の関わりやコミュニティの減少、また新型コロナウイルス等の影響で体験が減っていく中、農業体験を通じて自然への感謝や畏敬の念を持つという道徳観を通じて次世代を担う子供たち伝えていくことと同時に、親子が共に学ぶ機会を創出することで、家族の絆や家庭倫理の醸成を目的としてこの事業を企画させていただきました。

農業体験事業という岡山青年会議所では近年行っていない事に挑戦し、設営面でも不備やご迷惑をおかけする点が多々あったかと思いますが、子供たちの笑顔を見れて本当に良かったと思っております。

また今回の事業に対して参加の希望があったにも関わらず受け入れる事が出来なかった点や、当日の課題も見つかりましたので今後の事業に活かして参りたいと思います。

そして本事業に参加していただきました参加者様の皆様及び携わっていただいた全ての方に心からの感謝を申し上げます。



岡山の子どもたちと一緒に岡山のまちの未来を考える

未来へと繋がるこども塾

02

岡山青年会議所による「未来へと繋がるこども塾」の事業が行われました。当日は、早朝に雨が降ったおかげで気温が上がりすぎず、絶好の屋外事業日和となりました。

瀬戸内国際芸術祭の舞台でもある犬島で、「こんな岡山になるといいな」という思いでビジョンボードを作成。学校では教えてもらえない学びを経験することで、こども達の驚きと笑顔が溢れる素晴らしい事業となりました。

また、学びの結果をビジョンボードの作成によるアウトプットをすることで、こども達が自分の夢を描ききっかけを提供することができました。

本事業を通して、こども達の幅広い可能性を知るきっかけとなれば幸いです。

ご参加くださった皆様ありがとうございました。



Chairman Candidate Announcement

次年度理事長予定者紹介



公益社団法人岡山青年会議所
第73代理事長予定者

株式会社山脇山月堂
代表取締役社長

安部 真良

Abe Masayoshi

【学歴】

2002年 3月 香川誠陵高等学校 卒業

2005年 3月 産能短期大学 卒業

【職歴】

2007年 4月 株式会社山脇山月堂 入社

2017年 4月 同社 専務取締役 就任

2022年 6月 同社 代表取締役社長 就任

現在に至る

【JC歴】

2015年 前期入会 後期総務委員会(委員)

2016年 岡山JCの魅力発信委員会(幹事)

2017年 総務・広報委員会(副委員長)

2018年 共感溢れるまちおかやま創出委員会(副委員長)
理事長セクレタリー(チーフセクレタリー)

2019年 会員拡大委員会(理事委員長)

2020年 総務室(専務理事)

2021年 ひとつづくり室(副理事長)

兼 会員研修委員会(委員長)

2022年 まちづくり室(副理事長)

JCI Junior Chamber International OKAYAMA



homepage address

<https://www.okjc.org>



facebook

<https://www.facebook.com/okjc.org>

岡山JCではホームページでも情報を発信しております。事業や運動のご報告など随時更新しております。お気軽にホームページをご覧ください。

岡山青年会議所

検索



次号は12月発行予定です。

発行日 令和4年10月
発行 公益社団法人岡山青年会議所
〒700-0985 岡山市北区厚生町3丁目1番15 岡山商工会議所ビル6階
TEL 086-223-0938 FAX 086-225-0500 email info@jci-okayama.com
発行責任者 公益社団法人岡山青年会議所
総務・広報委員会
委員長:大塚 真弘
綾部 系一・久保 和裕・服部 悟
川口 修司・岡田 有造・岸本 啓吾・杉岡 裕・坂本 雅樹・井上 玉丹穂